

二〇二五年度

プレゼンテーション型 入学試験問題

国語（算数と合わせて四十分）（全二ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 時間内に国語と算数を解きます。どちらから解きはじめてもよいですし、途中で他の科目に移ってもかまいません。
- 三. 試験開始後二十分たったところで、合図を出すので参考にしてください。
- 四. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 五. 試験開始後、問題冊子がそろっていない、印刷がはつきりしないなどの不備があったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 六. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 七. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点など記号も一字として数えなさい。
- 八. 問題文は上下二段になっています。

てはいけません。」とどがらし」と言うより、「とんがらし」と言ったほうが、からく聞こえるのではないでしょうか。

もっと別な組み合わせを考えてみましょう。「冷たい声」というのはどうでしょうか。ここでは、肌で感じられる「**F**アタタかき、冷たさが耳で聞こえるものと組み合わされています。「なめらかな声」ならば、手でさわった感じが耳に聞こえるものと結びつけられていることになります。色についても、「冷たい色合い」とか「柔らかい色合い」などと言うことがあるでしょう。

③ここでは、肌で感じる冷たさや手で触れた感じの柔らかさが眼で見た感じに適用されているわけです。

(池上嘉彦『ふしぎな日本語』)

問一 空欄 1 5 にあてはまる言葉として適当なものを、次のア

ウの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あまり イ もう ウ もっと エ もともと オ やはり

問二 —— 線①「そのようなもの」とは何ですか。最も適当なものを、次の

ア アエの中から選び、記号で答えなさい。

ア もともとはたがいに性質の違うことば。

イ 心のなかで、それがどこかをつながらと感ずることば。

ウ もともとは性質が違うが、心のなかでつながらと感ずることば。

エ 私たちが日ごろとくに深く考えないで使っていることば。

問三 —— 線②『まじまじ』『まじまじ』『まじまじ』『まじまじ』『まじまじ』

言葉の終わりが「まじ」に替わって名詞(名前を表す言葉)になった言葉

です。次の語群の中から、言葉の終わりを「まじ」に替えられないものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 青い イ 色合い ウ おたがい エ キラキラ オ 暗い
カ とうがらし キ 強い ク どぎつい ケ やかましい
コ わかりにくい

問四 —— 線あ・い・うを参考にして、次のA・B・Cの言葉をつくりました。A・B・Cの言葉として適当なものを、ア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 耳で聞く音を眼で見えるものと結びつけて表す。

B 口での味わいを耳で聞こえるものと結びつけて表す。

C 口での味わいを眼で見えるものと結びつけて表す。

ア 冷たい水をかぶる。

イ 甘い顔立ちのアイドル。

ウ 渋い声がすてきな歌手。

エ 先頭の人がどんどん進む。

オ 赤い星がひかる。

問五 —— 線③「ここでは」が直接かかる(修飾する)言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 肌で感じる イ 手で触れた ウ 眼で見た エ 適用されている

問六 —— 線A「フカ(く)・B「ソウゾウ」・C「カンケイ」・D「ケント

ウ」・E「ムリ」・F「アタタ(か)」のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。